

今年度の研究体制

教科	研究協力員	静岡大学教育学部 共同研究者	本校職員
国 語	瀧口 翠里（青島中） 落合 麻央（岳洋中） 萩山 嵩心（川根中）	講 師 甲斐 温子	辻元 智 石野 裕子
社 会	金原 稜佳（菊川西中） 草間 智史（小川中） 伊藤 宏毅（広幡中）	准教授 伊藤 宏二 准教授 佐藤 正志 准教授 村井 大介	片岡 秀征 山竹 諒
数 学	鈴木 紳也（瀬戸谷中） 井出 千鶴（豊田中） 大柴 衛（島田一中）	教 授 柏元新一郎	美澤 将史 稲熊 紀昭
理 科	長谷川義訓（高洲中） 松下 佳史（掛川東中） 鈴木 拓実（六合中）	教 授 延原 尊美 准教授 郡司 賀透	大久保正樹 松浦 昭彦
音 楽	杉本 麻実（焼津中）	教 授 長谷川 慎 助 教 東屋敷尚子	杉浦 崇文
美 術	岩寄 晴子（大村中） 稲森 仁（菊川東中）	准教授 高橋 智子	竹森 恵子
保健体育	大石 凌雅（島田二中） 大長 勉（藤枝中） 小林 拓矢（小川中）	教 授 岡端 隆 准教授 杉山 卓也	平野 充訓
技 術	内山 優輝（掛川北中） 藤間 知之（広幡中） 稲垣 綾斗（相良中）	教 授 紅林 秀治 准教授 室伏 春樹	小関 航平
家 庭	柴田 梢（浜岡中） 青島 千春（岡部中） 片山圭津子（相良中）	教 授 小清水貴子	伊藤 誠
外 国 語	石川 佳延（大村中） 高木 勇里（大井川中） 杉山美加子（菊川東中）	教 授 矢野 淳 講 師 大瀧 綾乃	鈴木 桂子 松下 浩人
研究評議委員	教授 菅野 文彦 教授 色川 卓男 准教授 塩田 真吾 准教授 中村 美智太郎 准教授 河崎 美保		

教科研究・実践内容 本校ホームページにも掲載しています。ご覧ください。

<お知らせ>

研究部公式 LINE アカウント
友だち続々と増えています

あなたのスマートフォンから…

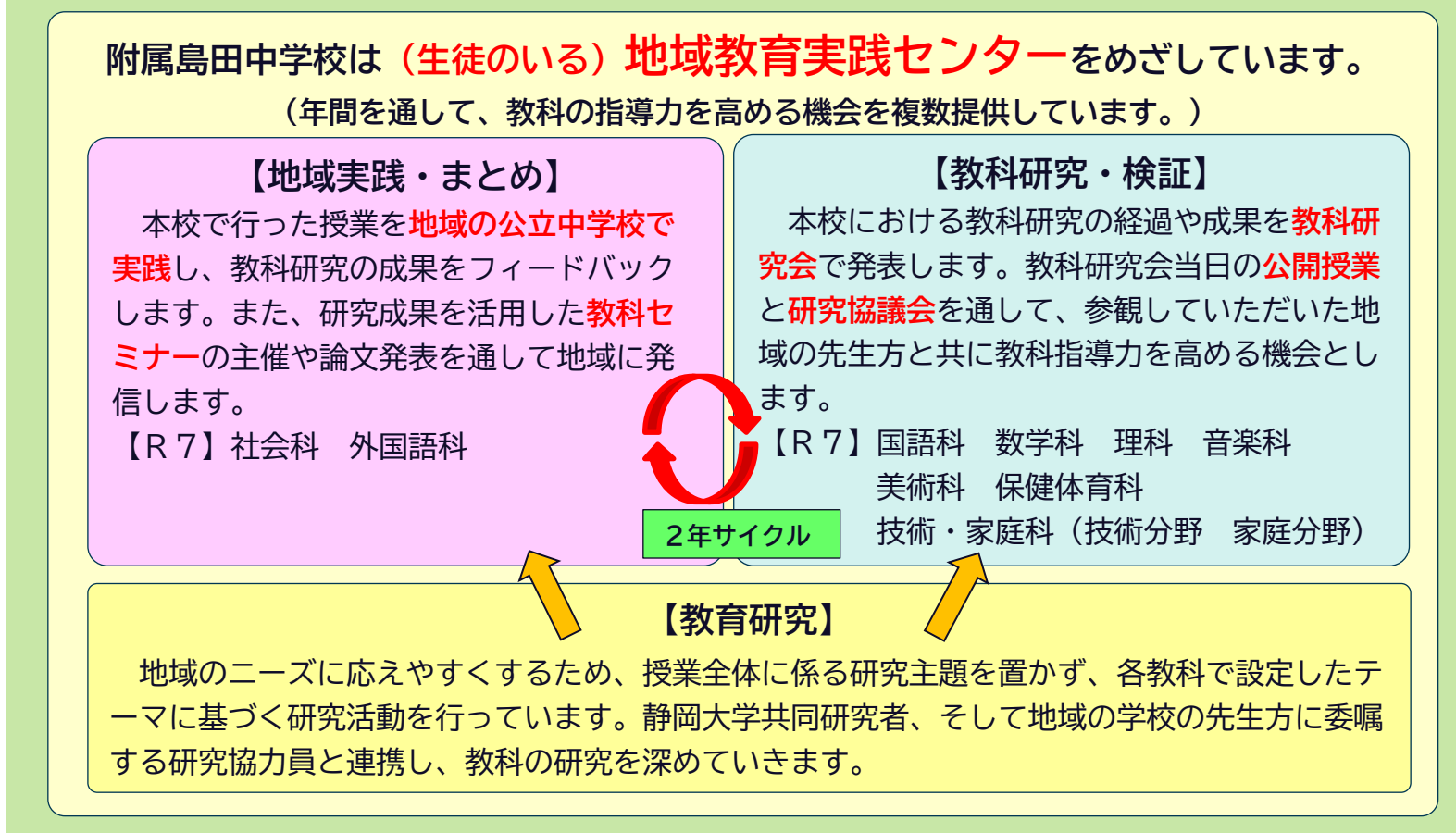
- ・附属島田中ホームページに簡単に移動できる
- ・各教科からのお知らせを受け取れる
- ・研究部へ手軽に問い合わせできる

若い先生からベテランの先生まで…
“つながり”を大切にして研究を進めていきます

附属島田中学校研究部



友だち追加お願いします。





国語科 教科研究・検証

1. 教科テーマ

学びの実感を目指した授業づくり

生徒が学びの実感をもてる授業を目指します。学びの実感を、「言葉や言葉の役割の重要性」「追究方法の有効性」「題材に現れた価値や人々の考え方に対するものの見方の広がり」と考えています。対話的な追究を中心とした授業を通して、既習事項を想起、活用させながら学びの実感を得るための単元構想や授業展開について研究しています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月20日(木)
研究授業Ⅰ:2年生「ガイアの知性」(説明的な文章)(龍村 仁)
研究授業Ⅱ:3年生「故郷」(文学的な文章)
(魯 迅 [訳]竹内 好)

保健体育科 教科研究・検証

1. 教科テーマ

観察から洞察へ
—思考の往還が生む“選りとり力”の育成—
～F+OODAを基軸とした論理的思考と感覚の言語化の探究～
これまでのF+OODAの実践的蓄積を基盤に、「観察」から一歩進んだ「洞察」に焦点化し、思考の深まりを通じて生徒自身が“選りとり力”を獲得していく授業づくりを研究しています。F+OODAは、仮説的な見通し(Foresight)を初動に加えた本校独自の思考フレームであり、行動前の構想・実行・振り返りを循環させることで、認知・感覚・判断を統合する実践的思考を促すものです。「選りとり」とは、既存の選択肢から選りとり操作的行為ではなく、課題に対して複数の可能性を構想し、意味づけと納得を伴った判断・行動へとつなげていく思考と行動のプロセスとして捉えています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月20日(木) 研究授業:3年生
◇フィードバックラボ:単元の区切りごと開催中
本研究における検証のフィードバックに加え、附属島田中保健体育科の実践を地域の先生方と共有する場として、グループLINEを利用しています。

数学科 教科研究・検証(地域実践・まとめを兼ねる)

1. 教科テーマ

数学的な思考力・表現力が高まる授業をめざして
～統合的・発展的に考察する力の育成とその分析～
数学的な思考力・表現力を育成するための望ましい指導のあり方を、実践を通して明らかにしていくことをねらいとしています。「発展」の必要性の追究と「統合」の分析を行い、今年度は生徒が主体的に考える姿を目指し、統合的・発展的に追究できる課題の開発を重点に掲げ、研究を進めています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月21日(金)
研究授業Ⅰ:1年生「空間図形」
研究授業Ⅱ:3年生「相似な図形」
◇研究協力員の先生による授業実践、センター紀要寄稿
◇数学科授業を語る会
10月21日(火) 講師:静岡大学教育学部 峰野宏祐 先生
2月10日(火) 講師:静岡大学教育学部 峰野宏祐 先生

理科 教科研究・検証

1. 教科テーマ

問いを見出す授業過程
～主体的に問いを見出し追究する生徒の育成～
科学的探究の入り口である問いの見出しに焦点をあて、「学習者自身が問いの見出しに強く関与することで、問題解決の動機が高まり、主体的に取り組む態度が向上するのではないか」と仮説を立て研究を進めています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月20日(木)
研究授業Ⅰ:(2年生)
研究授業Ⅱ:(1年生)
内容についての詳細は3次案内でお伝えします。
◇理科を語る会(授業実践紹介、授業づくり交流会)
◇静岡地質学フィールドワーク 実施日:10月19日(日)

音楽科 教科研究・検証

1. 教科テーマ

『音への気付き』から始まる音楽の学び
～音楽の“見方・考え方”を深める鑑賞活動の創造～
音楽や音そのもの(音への気付き)を捉えた後、その捉えたことをイメージや感情、文化などと関連付けて考える時に「音楽的な見方・考え方」が働き、実感を伴った理解や必要性の実感を伴う技能が習得できると考えます。『音への気付き』が全ての活動の基盤となる授業を研究しています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月20日(木)
研究授業:3年生「音楽をプレゼンテーションしよう」
生徒が自分で選んだ楽曲を対象に、音楽の特徴を根拠に「なぜその曲が好きなのか」を説明するプレゼンテーション活動を行います。旋律・リズム・構成・使用楽器・雰囲気などの音楽的要素に着目しながら言語化する力を育成し、音楽を「聴いて終わる」から「考え、伝え、共有する」活動へと発展させることをねらいとします。

社会科 地域実践・まとめ

1. 教科テーマ

主体的に社会に参加できる資質・能力の育成
～エンパシーを働かせた社会の考察・構想～
本校の社会科では、「社会の一員としての責任をもち、よりよい社会を目指して実社会に参加していく力を育むには、他者へのエンパシーを働かせた考察や構想が必要である」と考えています。しかし、時には「主観にのみ頼る思い込み」であったり、「客観的なデータのみでの理解」で終わったりしてしまうことがあります。どのような単元構想、発問、思考するうえでの情報があれば、その人の思いに迫ることができるか、研究をしています。

2. 研究案内

◇研究協力員の先生による授業実践、センター紀要寄稿
◇授業づくりセミナー 実施日:1月下旬を予定
本校職員による公開授業、静岡大学の教授をお招きし、歴史の授業づくりについての講話を予定しています。

教科研究・検証

2年サイクル

校内研修

研究授業・地域実践授業

授業づくりセミナー

地域実践・まとめ

令和7年度は、静岡大学教育学部 河崎美保先生を全体研究アドバイザーとしてお招きし、「主体性」をキーワードに研究を推進しています。

美術科 教科研究・検証

1. 教科テーマ

豊かに発想・構想し、
見方や感じ方を深める生徒の育成
～生徒の自己理解を支える授業計画と工夫～
変化の著しい社会に対応するためには、自己理解と自己調整力が必要です。美術科では、生徒が自分のスキルや学びの状況を自覚(メタ認知)しながら、主体的に造形活動に取り組み、見方や感じ方を深める授業を目指します。ポートフォリオ、制作(表現)と鑑賞(受容)、造形要素の明確化と言語化などをキーワードに、生徒がいつでも学びを振り返ることができる授業計画と工夫について研究しています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月21日(金)
研究授業:1年生
※内容についての詳細は3次案内でお伝えします。
◇研究協力員の先生方による授業実践

技術・家庭科(技術分野) 教科研究・検証

1. 教科テーマ

生徒の日常生活における解像度を
高める授業と振り返り
よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、主体的に身の回りにある技術に目を向け、自分ごととして関わりを捉え、今後の社会における技術の在り方を考えることのできる生徒の育成を目指しています。そのための題材構想や授業展開、振り返りの在り方について研究しています。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月21日(金)
研究授業:2年生「B 生物育成の技術」
※内容についての詳細は3次案内でお伝えします。
植物工場における技術(LED光を用いた水耕栽培)について学び、獲得した資質・能力や経験を活かして、今後の社会における技術の在り方を考える授業づくりについて検証します。授業後の研修会では、実際の現場で働く方を講師として招き、講話をしていただく予定です。

技術・家庭科(家庭分野) 教科研究・検証

1. 教科テーマ

主体的によりよい生活を創造できる生徒の育成
～複線型授業による「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の一体的な充実～
VUCAの時代には、知識の習得に留まらず、社会の変化に対応し、自ら課題を立て、解決していく資質・能力が求められます。そのため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、複線型授業による主体的な学びを構想します。生徒の主体性を生かし、教師が伴走する学びを研究していきます。

2. 研究案内

◇教科研究会 実施日:11月21日(金)
研究授業:2年生「消費生活」
※内容についての詳細は3次案内でお伝えします。
◇研究協力員の先生による授業実践、センター紀要寄稿